舞鶴の乙女たち[[1]](#footnote-1)

香山光郎

若き舞鶴の乙女たち

いと美しき乙女等、

一組舉りて行きぬ、

海軍への奉仕に。

をみななれば

銃とるわざにはねど、

かほそき腕もて

かなふこと盡さゞらめや。

師走の風寒き日なりき、

この乙女等、愛國の

熱情に頬ほてらして

南へと征で立ちしは。

いつもなれば、

家に甘ゆべき、

いとしき娘子らなるに、

あゝ雄々しくもあるか。

斷髪のあどけなき

この子等の姿よ、

かひがひしく立働ける、

瞼に映して、われおろがむ。　　　（昭和十八年二月一日朝）

1. 『内鮮一體』1943年3月号。「舞鶴」は京城にあった舞鶴公立高等女学校のことだと思われる。舞鶴高女は内鮮一体教育のモデル校で、卒業生の一部がこのころ鎭海の海軍基地で軍属として働いている。 [↑](#footnote-ref-1)